

冬らしい寒さになってきました。外は雪が積もったり消えたりを繰り返しています。
今月は学内紙「Rose Thorn」と Cheating について報告します。

1. 学内紙「Rose Thorn」

ローズ・ハルマンには毎週金曜日に発行される **Rose Thorn** という学内新聞があります。**Rose Thorn** は学生の編集員によって編集され、内容は学内や地元テラホートの行事やニュース、問題点などを取り上げています。大抵は1～3面がトップの記事、4、5面がその週に公開された映画や音楽、6面が投書、7面が運動部の活動、8面がジョークなどの娯楽となっています。毎週金曜日になると、学内の数箇所に設置されたスタンドに配布され、ほとんどの学生が持ち帰っていきます。

さて、前学期のちょうど中間試験頃の **Rose Thorn** が興味深い問題を取り上げていたので、次項に紹介します。

2. Cheating

2003年10月24日付の **Rose Thorn** の特集は **Cheating** に関するものでした。記事のおおよその内容は以下のようなものです。

Cheating は大別して他人の答案を写すこと、剽窃、デジタルファイルの共有の3つがある。このうち、メイプルやプログラミング・コードなどデジタルファイルの受け渡しは本学では最も一般的な例だ。こうした **Cheating** は学生や教授の中でしばしば議論される。

学生の言い分としては、教授が要求する課題は相当に難しいものが多く、そのため教授は課題をグループで議論することを奨励する。その際他人の答案を流用することがあっても、それが **Cheating** だとは考えづらい、というものだ。

Cheating の判断基準は教授によって異なっているが、それらは修学規定に準じたものだ。

修学規定では、課題の共同作業について次のように定めている；

「学生は他の学生と課題について議論することができるが、最終的に提出するものは各々で行われたものでなければならない。剽窃や答案の写しがあった場合、その学生に単位は与えられない。このようなガイドラインは学科によって異なるため、学生はそれぞれの学科のガイドラインを注意して読まなければならない。」

私は、アメリカの大学では **Cheating** に関しては厳しく、そうした行為はまれであると思っていたのですが、こうして記事として取り上げられるように、問題となっているようです。幸い、私の周りではそうした行為は見かけませんが、図書館や寮のロビーなどでグループで宿題をしている光景はよく見かけます。

この記事には、学生のインタビューもいくつか載っており、その中には「確かに本学には **Cheating** が存在するが、他の大学に比べればよい方だと思う。」というものがありました。他のアメリカの大学ではどのような状況なのか気になるところです。

以上で今月の報告を終わります。